

第7回 十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会概要

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会を3/14に開催しました。

北海道開発局では、十勝川千代田新水路の一部を、河川整備を進めていく上で解明すべき様々な技術的な課題に関する実験研究を行う実物大実験水路として活用しています。

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会は、実験水路において実施する実験研究に関して、河川工学等の専門的な立場から以下に関して助言をいただくものです。

- 1) 実験研究の長期計画の策定・変更
- 2) 実験研究の評価に関すること
- 3) 活用研究者の選定に係ること

このたび、第7回十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会を、下記のとおり開催しました。



第7回アドバイザー委員会の様子

【委員会の開催日時等】

- ・日 時：平成25年3月14日
13:30～16:30
- ・開催場所：かでの2.7 10階 1030会議室
(札幌市中央区北2条西7丁目)

第7回アドバイザー委員会には、委員全員（5名）が出席いたしました。

事務局から各議題についての説明を行った後、各委員により活発な議論が行われました。

なお、委員会は公開で行われました。

【第7回アドバイザー委員会の議題】

- (1) 破堤実験研究成果の普及活動報告
- (2) 平成24年度 河床変動特性の検証実験 研究報告
- (3) 平成25年度 破堤抑制工実験 実験実施計画

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会の委員名簿

(平成25年3月14日現在)

区分	氏名	所属
委員	黒木 幹男	元北海道大学大学院 工学研究科 准教授
委員長	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 工学研究科 教授
委員	藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授
	原 俊哉	国土交通省北海道開発局 建設部 河川計画課長
〃	山田 正	中央大学 理工学部 都市環境学科 教授

(50音順 敬称略)

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会での主な意見

(1) 破堤実験研究成果の普及活動報告について

- 千代田実験においては、その成果を河川行政へと反映させていくことが重要であり、そのことに留意して実験研究を進めていくこと。

(2) 平成 24 年度 河床変動特性の検証実験 研究報告について

- 側壁の矢板沿いや護岸ブロック上の流れなど、水路内の流れを詳しく分析し、河川の流れの把握につなげてほしい。
- DUNE の領域のほか TRANSITION の領域での実験が行うことで、より有益な情報が得られるのではないかと。
- 河床波と粗度係数の関係を明らかにすることができれば、実験結果が河道計画の立案に大きく資するものとなるだろう。
- 移動床実験の詳細なデータが得られており、このデータが他の研究者の研究にも活用され、水理学的な研究が進展することも期待したい。

(3) 平成 25 年度 破堤抑制工実験 実験実施計画について

- 破堤時における破堤の抑制から荒締切までの一連の流れの中で、次年度の実験がどのような位置づけにあるのかを、整理しておく必要がある。
- 抑制工の効果発現には、出水時に発生する落ち掘れの深さが大きく影響すると考えられるが、実河川に対する千代田実験成果の適用性を明らかにしていく必要がある。
- 実際の出水時にブロックを設置し始める判断基準や、対策工の位置などを今後整理していく必要がある。
- 破堤の進行過程をしっかりと認識したうえで、破堤を抑制する対策を考えることが必要であり、破堤抑制工の位置づけを明確にするために、再度これまでの実験データを確認しておく必要がある。
- 移動床上にブロックを置いたときの安定性の考え方の整理を行っておくことが必要である。
- 破堤抑制工実験の効果の検証方法を整理しておく必要がある。

その他

- 実験のデータを他の研究者にも活用され、その研究成果が行政側へとフィードバックされるような仕組みが望まれる。
- 破堤実験の成果を、ハザードマップで用いられている浸水想定区域図の精度向上に役立てていくことが望まれる。